

# 一 般 質 問 通 告 書

令和6年12月9日から開催される第4回七飯町議会定例会において、次のとおり  
一般質問をする旨、各議員から通告がありましたので、通知いたします。

令和 6 年 1 2 月 9 日

七飯町長 杉 原 太 殿

七飯町議会議長 木 下 敏

目 次

質 問 者	質 問 事 項	ページ
1. 平 松 俊 一	学校支援員の増員について	1
	社会教育施設整備検討委員会の検討取りやめについて	2
2. 上 野 武 彦	函館新道下のトンネルの点灯しなくなった照明について	3
	見晴公園への大規模な体育館の建設について	4
3. 田 村 敏 郎	七飯町に於ける教育の在り方について	6
4. 池 田 誠 悦	支援を要する児童生徒の学びの場の確保について	7
5. 澤 出 明 宏	高齢独居世帯の増加と「見守り活動」及び終活支援策について	8
6. 神 崎 和 枝	健康寿命の延伸のためのRSウイルス感染症や肺炎の予防について	10
	健康アプリ実証実験について	12
7. 佐々木 陵 二	七飯町火葬場 ななえ斎苑の現状と今後の維持管理について	13
8. 中 川 友 規	社会教育施設整備(体育館・図書館・プールの建設)の進め方について	14
	大中山地域の防災拠点の整備について	15
	地域農業経営基盤強化促進計画(地域計画)策定と今後の農業支援対策について	16
9. 稲 垣 明 美	高校通学状況について	17

通告順位 及び質問者	要 旨	
1. 平松俊一	1	<p>学校支援員の増員について</p> <p>文部科学省は 2025 年度から、不登校の小中学生向けに学習支援員を新たに配置する補助費用を 25 年度予算概算要求に計上した。</p> <p>これは学校やクラスに入りづらい子供の“居場所作り”として補助の対象校を全国に 3 千校を見込んでの予算計上とされている。</p> <p>近年特に不登校や引きこもりの数が全国的に増えており、その対策が急がれているが決め手となる手段は明確にはなっていなかった。</p> <p>今回、文部科学省の考え方に基づく学校支援員の増員が不登校・引きこもり対策として成果を上げられる可能性は高く、当町での更なる増員について次の点を伺いたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 最新の不登校と引きこもり者数について</li> <li>2. 現在行われている町内での不登校と引きこもり対策について</li> <li>3. 現学校支援員の人数と活動内容、雇用状況について</li> <li>4. 町内学校にある普通級以外のクラス数について</li> <li>5. 校内教育支援センターについて</li> <li>6. オンライン上での交流や学習について</li> </ol>

通 告 順 位 及 び 質 問 者	要 旨
	<p>2 社会教育施設整備検討委員会の検討取りやめについて</p> <p>体育館・図書館・プールについて、社会教育施設整備検討委員会（以下、検討委員会）で昨年より検討を重ねて来たが、本年1月当初の検討内容から図書館とプールを外し、体育館の検討のみを行う事とした。</p> <p>当初からの検討内容が変更された後でも、その一部だけについて検討を続けることに違和感を感じている町民も多く、町側からの体育館建設に関する提案内容についても条件が狭すぎ、検討の余地が少ないとの声も上がっている。</p> <p>途中で計画変更された理由が「財源不足」なのであれば、財源に見合った検討から始めるべきで、体育館の新設を前提とし、その必要な機能に関する検討ばかりが行われていることは全体的を得ていないものである。</p> <p>また、緑の基本計画において、都市計画区域における令和元年現在の公園面積は令和22年整備目標値の64%しか確保できていない現状であり、パブリック・コメントを実施した案では実質的に公園面積を更に減少させるものである。</p> <p>少子高齢化社会に突入し、町民が安全で快適な生活を送るために都市公園は必要不可欠な存在と考えられ、増設こそあれ削減など当町ではあってはならない事と思われる。</p> <p>財政面から将来を見据え直し、その上で多くの町民の要望に応えられる公共施設建設を改めて考え直すべきであり、現検討委員会で行われてきた協議を一旦、白紙に戻す考えがないか伺いたい。</p>

通告順位 及び質問者	要 旨	
2. 上野武彦	1	<p>函館新道下のトンネルの点灯しなくなった照明について</p> <p>七飯町藤城公民館横の国道5号線の信号機より上に上がり、函館新道をくぐるトンネルは、約65メートルの長いトンネルである。トンネルを照らす照明が6灯設置されているが、その内3灯が点灯しなくなったため、地域の住民が住民課に今年の春先に改善を求める電話をしたが、半年たっても改善されず、その内この夏に残りの3灯も切れ、65メートル近いトンネルの照明が現在1灯も点灯していない真っ暗なトンネルとなっている。</p> <p>部活で通っている中学生の女生徒が、気持ちが悪いので早く何とかしてほしいと訴えているという事である。</p> <p>その後、11月の初めになって、春に電話した住民が2度目の電話をしたところ、12月に予算が通らないと対応できないという回答だった。</p> <p>そこで以下の点について伺いたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. このトンネルを通る道路と照明は町の管理ではないのか。</li> <li>2. 照明が切れても半年、1年近く放置する七飯町の行政の実態について、町長はどのように考えているのか。</li> </ol>

通 告 順 位 及 び 質 問 者	要 旨
	<p>2 見晴公園への大規模な体育館の建設について</p> <p>1. 七飯町は、貴重な町内の公園の1つである見晴公園の真ん中に 5,100 m<sup>2</sup>というこれまでのスポーツセンター2,179 m<sup>2</sup>の約2.3倍の各種競技大会を開催できる規模の体育館の建設を計画し、住民の意見を伺うという事でパブリックコメントを実施した。</p> <p>その結果、パブリックコメントに寄せられた105件の意見のうち半数近い51件が見晴公園での建設に反対を表明するものとなった。</p> <p>その後、町は新しく3つの案を発表し、町内で3か所、4回の住民説明会を実施している。3案のうちの2案はやはり見晴公園を利用する案となっていた。</p> <p>住民説明会でも多くの住民が見晴公園での建設に反対を表明していたが、こうした住民の意見を尊重して建設計画を進めるべきと考えるが町長の見解を伺いたい。</p> <p>2. 七飯町は今回、各種スポーツ大会を開催できる大規模な体育館の建設を進めようとしており、施設費を含め39億5000万円をかけようとしているが、何年に一度あるかもわからない各種競技大会の開催を目指すのではなく、住民が気軽に訪れてスポーツを楽しみ、健康の維持増進に貢献するスポーツセンターの建設をすべきではないかと思うが、見解を伺いたい。</p>

通 告 順 位 及 び 質 問 者	要 旨
	<p>3. 七飯町の町債は令和5年度末で、118億6286万円となっている。令和6年2月に民生文教常任委員会で提出された資料では、現在進めている中学校の長寿命化事業など5事業67億5700万円の町債は40億5800万円を予定しているとのことであった。</p> <p>この段階で町の町債は159億2086万円となり、これまで経験したことのない借金を抱えることになる。</p> <p>これから、体育館の39億5000万円の事業を進めようとしているが適正な規模での事業にし、図書館、温水プールの建設も実現させる財政運営とすべきと考えるが町長の見解を伺いたい。</p>

通告順位 及び質問者	要 旨	
3. 田村敏郎	1	<p>七飯町に於ける教育の在り方について</p> <p>新たに教育長に就任されました倍楼司氏には、七飯町の教育の更なる発展に向け手腕を発揮していただくことに対し大いに期待してやみません。</p> <p>つきましては次の点について伺いたい。</p> <p>1. 小学校の運動会で子ども達と一緒にゴールできるようにスタート位置をそれぞれずらしていたということが保護者の間で話題となっているが町内にもそういう事象があるのか。</p> <p>また、その事によりどのような教育的効果があるのか、教育長の見解を伺いたい。</p> <p>2. 近年、保護者が先生の家庭訪問には協力的でないという話が聞こえるが、渡島管内の実施状況はどうなっているのか。</p> <p>家庭環境を知ることはその子の指導上必要と思われるが、教育長の見解を伺いたい。</p>



通 告 順 位 及 び 質 問 者	要 旨	
4. 池 田 誠 悦	1	<p>支援を要する児童生徒の学びの場の確保について</p> <p>現在、七飯町内の小中学校及び義務教育学校には特別支援学級が設置され、知的障害や自閉スペクトラム症などの児童生徒に対して実態に応じた学びができる環境が整えられている。</p> <p>また、令和4年度の文部科学省による「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒の実態調査」により、通常の学級に在籍する児童生徒の8.8%に発達障害の可能性があることが明らかとなった。</p> <p>しかし、七飯町では通常の学級に在籍し、特別な教育的支援を要する児童生徒への十分な支援体制が整えられていないことが課題であると考えている。</p> <p>北海道教育委員会においても、通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援が推進されており、通級による指導体制の充実が求められている。</p> <p>そこで、以下のことについて伺いたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>七飯町では現在、不登校の児童生徒のための教育支援センターが開設されているものの、通級指導教室については年々必要性が高まっている中で開設が先延ばしになっているのではないかと。</li> <li>今後の開設に向けての見通しや特別支援教育支援員の増員など、通常の学級に在籍する児童生徒への支援の在り方についてどのように考えているか。</li> </ol>

通告順位 及び質問者	要 旨	
5. 澤出明宏	1	<p>高齢独居世帯の増加と「見守り活動」及び終活支援策について</p> <p>令和6年版の内閣府高齢社会白書によると、令和2年時点で65歳以上の一人暮らしの人は男性約231万人、女性約441万人となっている。平成2年には男性約31万人、女性約131万人であり全体として30年間で約4.1倍、国立社会保障・人口問題研究所による令和7年の推計では約5倍の816万人と驚異的な増加となっている。</p> <p>そうした一人暮らしの高齢者が亡くなり、埋火葬を行う人がいない場合、もしくは判明しない場合は、法律に基づき、死亡地の市区町村（長）が埋火葬を行うことになる。その際の費用は亡くなったご当人の遺留金品などを処分して費用に充当することになるが、不足分は埋火葬を行った市区町村が一時立て替えて支弁することとなる。</p> <p>身寄りのない方が安心安全な日常を過ごせる暮らし向きをサポートすることや、一人暮らしの住民が亡くなった後の手続きをスムーズに進められるように制度づくりを進めておくことは、高齢化が進む自治体として喫緊の課題であると考えます。そこで以下の通り質問する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 民生委員さんや町内会、地域包括支援センター等の活動で町内の独居世帯については概ね状況把握が進んでいると思うが、町が把握している過去五年分の高齢者の独居世帯数の推移と当該独居世帯のうち緊急連絡先(身寄り)の無い世帯は何軒あるのか。</li> <li>2. 当該世帯について、持病の不安を含め「命のバトン」や民間の「見守りサービス」等の命を守るツールの普及推進や身寄りのない一人暮らしの高齢者として、町に希望したい支援等(生の声)についての聞き取り調査についての考えは。</li> </ol>

通 告 順 位 及 び 質 問 者	要 旨
	<p>3. 七飯町における終活相談件数(窓口相談件数を含む)の推移と対応状況は。</p> <p>4. 生前意思の把握のため、エンディングノートの配布と作成支援など終活支援についての考えは。</p> <p>5. 終活支援について近隣市町村の取り組み状況の把握とそれに対する七飯町の考え方は。</p>

通告順位 及び質問者	要 旨	
6. 神 崎 和 枝	1	<p>健康寿命の延伸のためのRSウイルス感染症（呼吸器感染症）や肺炎の予防について</p> <p>世界保健統計2023年版によりますと、日本人の平均寿命は84.3歳で世界一位、健康寿命については74.1歳でこちらも世界一位になっている。当町の健康寿命は管内では上位に位置し、男性78.97年、女性が84.97年となっている。自立して生活ができ健康で過ごせることは、誰もが願うところであり、当町の健康寿命の延伸や医療費抑制のための一定の仕組みの効果が現れていると評価している。</p> <p>一方、グローバル化による新たな健康課題の発生や移動の高速化による広域な感染症には注視をして行かなければならない。</p> <p>近頃報道されているRSウイルス感染症について説明すると、RSウイルスは身近に存在し、2歳までに一度はかかるとされており、咳やくしゃみなどの飛沫を吸い込んだり、ウイルスの付いた手で鼻や口を触ったりして感染する。多くの人がかぜの症状ですむが、乳幼児や、基礎疾患を持って抵抗力の落ちている高齢者は重症化し酸素投与や点滴、呼吸器管理、肺炎を引き起こすウイルス感染症として今、注意喚起されている。</p> <p>重症化のリスクは、実はインフルエンザと比べるとインフルエンザと同等若しくは、それ以上とされている。特に肺炎を引き起こすリスクはRSウイルスの方が高く、しかも、入院が長引き安静が続くと、回復しても寝たきりになり、食事や着替えなど日常生活で介助が必要になったりする懸念が高まる。</p> <p>今後の超高齢化社会をむかえるにあたりRSウイルス及び肺炎に対する対策はより一層重要になってくるのではないかと考える。</p> <p>そこで、次のことについて伺いたい。</p>

通告順位 及び質問者	要 旨
	<p>1. 過去5年間の肺炎死亡者数の推移と死亡原因の順位について。</p> <p>2. 肺炎予防の一環としてインフルエンザ、新型コロナ、肺炎球菌、RSウイルス感染症についての周知と、成人・高齢者における感染予防への注意喚起はどのような方法で行っているか。</p> <p>3. RSウイルスワクチンは、日本人も参加した臨床試験で接種した人の発症を8割減らす効果が確認された。</p> <p>さらに慢性心臓疾患や呼吸器疾患、腎不全など基礎疾患を併存する患者においても有効率 94.6%と報告されており、その効果は2年にわたり持続する。</p> <p>国としても重点感染症として位置づけ、開発優先度が高いワクチンとして開発されたが、接種費用2万円以上と高額なワクチンである。住民の命と健康寿命の延伸、医療費抑制のために少しでも接種しやすいよう、公費助成を検討する考えはないか。</p> <p>4. 日本小児科学会において、RSウイルスは世界中に広く分布し、特に生後6か月未満で感染すると重症化することが示されている。新生児、乳幼児については肺炎の50%、細気管支炎の50%～90%がRSウイルス感染症によるとされている。</p> <p>RSウイルス母子免疫ワクチンにより、胎盤を通じて母体から胎児へ中和抗体が移行することで、乳児におけるRSウイルスを原因とする下気道疾患を予防するとの報告もあるが、当町として妊婦への接種を検討する考えはないか。</p>

通 告 順 位 及 び 質 問 者	要 旨
	<p data-bbox="507 369 1045 405">2 健康アプリ実証実験について</p> <p data-bbox="560 472 1390 703">町民の生活習慣病の予防や健康増進を図り、健康づくりのインセンティブ（動機づけ）を高める方策として健康アプリを今年度は新規事業として行った。これは、短期のイベント取り組みであったが、実証実験の結果について伺いたい。</p> <ol data-bbox="584 772 1390 1308" style="list-style-type: none"> <li>1. 健康への無関心層への効果はどうであったか。</li> <li>2. イベント参加者アンケートの結果は。また、どの様に活かしていくのか。</li> <li>3. 継続実施を要望する声が上がっているが来年度の計画は。</li> <li>4. 健康ポイント制度の導入に向けて、各世代が継続的に利用したいと思える魅力的な内容の考えはないか。</li> <li>5. 事業に合わせて、アプリの講座、健康づくりセミナーを実施する考えはないか。</li> <li>6. 携帯電話を所有していない人への参加対応策の考えはないか。</li> </ol>

通告順位 及び質問者	要 旨	
7. 佐々木 陵 二	1	<p>七飯町火葬場 ななえ斎苑の現状と今後の維持管理について</p> <p>平成10年に完成したななえ斎苑は建設後26年経過し、細部に老朽化が進んでいる状況である。利用する方は故人と最後のお別れをする場であり、服装も正装で利用する方が多いことから次の点について伺いたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 今年の夏場はエアコンが故障し利用者からエアコンが効いていなくて暑くて大変だったと多く伺ったが、どうしてすぐに修理しなかったのか。 男子トイレの悪臭が気になるとよく伺うが、その現状について。</li> <li>2. 老朽化に対し、現段階での修繕計画と今後の対応について。</li> </ol>

通告順位 及び質問者	要 旨	
8. 中川友規	1	<p>社会教育施設整備(体育館・図書館・プールの建設)の進め方について</p> <p>町は、昨年から社会教育施設整備(体育館・図書館・プールの建設)を進めてきている。社会教育施設整備検討委員会を設置して町民の声を聴いて整備していく、としていたが現状は、町民の声を聴くこととは程遠くかけ離れている状況と言わざるを得ない。</p> <p>また、先日町が行った住民説明会に対し、11月22日の新聞報道では「体育館建設に反対続出」との見出しで報道されている。このような状況に対し次の点について伺いたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. これまでの進め方に問題があったのではないか</li> <li>2. このまま進めるのは無理があるのではないか</li> <li>3. 財源等を再検討し、よりよい街づくりを考えて整備すべきではないか</li> </ol>



通 告 順 位 及 び 質 問 者	要 旨	
	2	<p>大中山地域の防災拠点の整備について</p> <p>現在、老朽化した学校施設に関しては長寿命化工事を順次進めているところである。</p> <p>大中山中学校においても老朽化が進んでいるが防災、災害対策、避難機能等の観点から次の点について伺いたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大中山地域の防災、災害対策、避難所機能等の現状と計画は</li> <li>2. 今後進める大中山中学校の整備方針は</li> <li>3. 大中山中学校を地域の防災拠点として整備することを検討すべきでは</li> </ol>

通 告 順 位 及 び 質 問 者	要 旨
	<p>3 地域農業経営基盤強化促進計画（地域計画）策定と今後の農業支援対策について</p> <p>当町は西洋式農法による近代農業発祥の地であり、これまでも農業を基幹産業として取り組んでいる。しかし時代が進み世界情勢や国内情勢の変化に対し、当町における農業についても大きく変化を続け、今後も情勢に合わせた取り組みが必要と考える。</p> <p>そこで国では、将来、農家の高齢化や人口減少により、耕作放棄地が拡大し続けると地域の農地が守れなくなるとの判断から、農業経営基盤強化促進法を改正し、令和5年4月より地域農業の在り方を示した「人・農地プラン」が「地域計画」に名称が変わり「目標地図」を新たに作成することを義務付ける事とした。</p> <p>この計画の中で「目標地図」は、高齢等で耕作ができなくなった際に、次の耕作者へスムーズに引き継がれるよう、10年後の1筆ごとの耕作予定者を示すもので、農地利用の将来図となるものである。地域計画は、地域が考える地域農業のあり方を、町が取りまとめ公表することとされており、担い手農家、土地改良区、農業委員会など幅広い関係者に関与いただき、地域での合意形成を図っていく必要がある。</p> <p>そこで次の点について伺いたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 令和6年第2回定例会において国の地域計画策定推進緊急対策事業を活用し「目標地図作成業務委託料（3,067千円）」を計上し、今年度策定に向け進めているが、現在の進捗状況と地権者等に対する周知度・認識度は</li> <li>2. 計画策定後の地域農業のメリット等は</li> </ol>

通告順位 及び質問者	要 旨	
9. 稲垣明美	1	<p>高校通学状況について</p> <p>令和6年度の七飯町施政方針に、子どもを安心して産み育てられる。また、住み続けたいと思える生活環境を整えるとある。</p> <p>現在、七飯町に高校が一枚あるが、多くの学校は函館市内に集中しており、通学にはいろいろ苦勞しているとの声を聞いた。</p> <p>そこで、下記の点について伺いたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 七飯町から函館の学校へ通学している人数の状況について</li> <li>2. 通学方法の状況について</li> <li>3. 町として、現在、どんな支援を行っているかについて</li> </ol>